

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和6年1月25日（木曜日）
午後2時30分～午後4時10分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏
委 員 遠山 泰範 委 員 辻 恵
委 員 北岡 ゆうこ
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
教育指導課長 関野 耕一 幼児教育課長 鈴木 慎一
生涯学習課長 山下 匡弘
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主事 松岡 翔太
- 6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会1月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る前に、新たに教育委員に任命された北岡ゆうこ委員から、一言挨拶をお願いしたい。

（北岡委員より挨拶）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、教育長報告を行う。1月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

- 1 2月22日 善行賞授与式（代表校北中）
- 2 5日 静岡県柔道祭入賞に伴う表敬訪問（伊東柔道会）
- 2 6日 教育機関職員試験委員会、市町対抗駅伝大会参加者と懇親会
- 2 7日 放課後児童クラブ訪問7か所（宇佐美、伊東小、大池、池、
八幡野、富戸、南）
- 2 8日 政策会議
- 1月 4日 政策会議、仕事始め式、市長庁外巡回同行、
教育委員会所管施設訪問、商工会議所主催賀詞交換会、

三曲連盟演奏会

- 5 日 元市子連会長来庁
- 6 日 二十歳式リハーサル
- 7 日 令和6年伊東市二十歳式
- 9 日 給食センター訪問
- 11 日 校長会、絵本寄贈（とどろき氏）
- 12 日 保育園園長面接
- 14 日 第58回伊東オレンジビーチマラソン大会
- 15 日 校長と人事関係個々面接、伊東青年会議所理事長来庁
- 16 日 青年海外協力隊パオ派遣表敬訪問（鈴木氏）、
保育園訪問（保育所えん、広野、栄光荻、栄光富戸、八幡野、
つくし保育園、ちゅうりっぷ保育園）、未来ビジョン会議
- 17 日 保育園訪問（富士見、夢きらら、川奈愛育、栄光なぎさ、
栄光湯川、宇佐美、玖須美）、
JAふじ伊豆あいら伊豆地区より青島みかん寄贈
- 18 日 就学援助認定審査会
- 19 日 令和6年度市予算案内示
- 21 日 不登校関係教育講演会
- 23 日 静東地区教育長会
- 24 日 幼稚園園長面談
- 25 日 教育委員会定例会、政策会議

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、各委員からの報告をお願いします。

委員：私もオレンジビーチマラソンの応援に行ってきました。とても良い雰囲気、天気もよく、風もなく、良い環境の中で走っていらしかった。楽しそうに話していらっしゃるお子さんたちの姿は盛り上がっていて、いいイベントだと拝見しました。

高橋教育長：後ほど生涯学習課長から話があると思うが、ゲストラナーとして、創価大学を卒業して、GMOに所属している嶋津選手も来られた。自分はお話しして、明るい方で、箱根も4度走ったなど話しておりました。大会を盛り上げていただいた。

委員：能登半島の地震でたくさんの方がお亡くなりになりました。その中には8歳とか13歳の子どもも犠牲になっている。改めて、防災教育の重要性、これを機という大変な被害に遭われた方に失礼になるかもしれないが、今一度、学校や家庭で備えや防災教育をやったほうがいいのかと思う。学校は今、カリキュラムがいっぱい時間を取ることが厳しいかもしれないが、総合の授業の時間を使ってなど、地震が来たらどうするかなど、最低限の知識を持っていなければならない。そういうことを授業の中でできたらいいなと思う。伊豆半島も能登半島と似ているので、災害が起きたら陸の孤島になるのは間違いないと思う。

高橋教育長：重要な問題だと思うので、後ほど委員の皆さんからお話を聞きたいな、と思います。

高橋教育長：次に議題に入る。始めに、報告事項、教議第11号「令和4年度伊東市教育委員会自己点検・評価報告書について」を議題とする。

（事務局から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：学識経験者の意見を見ると、しっかり見ていただいております、なるほどと思うところがあった。まず、17番の学校給食センターについて、評価がAからCに下がった点は、物価の上昇に伴い、比率が下がり、併せて評価が下がったという認識だと思う。地産のものをを使うと、値段がどうしても高くなるということだと思うが、この辺も何か工夫や具体的な変更はあるのか。また、20番、21番、22番と評価Bが続き、学識経験者の方からも結構意見、もう少し前向きに捉えても良いのではないかなというようなコメントがあったかと思うが、その辺、今後どうしていくのか。

関野教育指導課長：20番などは、こちらでもいろいろと検討をして考えたが、

なかなか教育の世界で、90%以上という値が付けにくい数字である。数値的にはほぼ全員ができていればという意見もあるが、例えば、学校が楽しいかという質問一つ取っても、かなり高いところまで数字は行くが、どうしても100%にはならない。そのあたりも鑑みて、Bという評価をさせていただいている。限りなくAに近いBというような捉え方をしている。ただ、Aにしてしまうと、何かこれ以上伸びしろはないという感覚も教育現場であったりする背景もある。教育の分野は、数値だけでは表れない感覚的な捉え、評価をしなければならない面もあるので、結果的にこういった評価になっている状況である。

杉山次長兼教育総務課長：17番の学校給食センターの地産地消について、評価者の指摘の中に、なぜ割合が低下しているのか記載と検証が必要であると記載されているが、基本的に学校給食費は、家庭から頂く賄材料費に、プラスして地産地消費、物価高騰対策費で成立している。地産地消は地物で普段扱えない高価なものを対象としている。あわせて、給食ならではの手間や量の問題で納入できないこともある。納入できる価格や、今言った給食ならではの手間が必要になることから、生産者に敬遠されてしまうこともある。そういった記載が少し丁寧にはできなかったかもしれない。

高橋教育長：給食の食材は、伊東はかなりいいものを使おうとしている。県教委の方では、静岡県産ならば全部地産地消としており、大体40%ぐらいの割合だと思うが、伊東の場合は伊東市内のものを地産地消として捉えをしていると思うので、やはり割合が県と比べると低くなる。このことはやむを得ないと思う。しかし、食材については、細心の注意を払いながら、美味しくて、新鮮なものを使おうとしているので、その辺ご理解いただきたい。

委員：今の給食について、これは意見ではなく感想だが、子どもたちからよく、給食の何が美味しかったとか、何をおかわりしに行ったとか、何が人気だったとか話題が出るので、美味しくて子どもたちが興味を持てる内容になっているのだろう、と話を伺いながら思った。もう一つ、学識経験者による意見を読んでいて、18ページ4番「いじめてはいけない」の95%以上の回答が、本来100%でなければならないと考えます、と意見がある。この時に、この残る

5%のいじめてはいけないと思わない子たちの想い、考えは一体どうであろうかと思った。

関野教育指導課長：委員ご指摘のとおり、本来100%とは我々も認識している。残り5%が非常に危険だと分析している。先ほどの学校が楽しいかという問いに対しても、学校によって5～10%程度楽しくないという回答がある。なぜ楽しくないのだろうといろいろ考えているところであるが、具体的に聞ける場合、聞けない場合がある。委員ご指摘の疑問について、私の経験からだと、例えば保護者からずっと虐待を受けていて、やられたらやり返したっていいではないかという考え方、今までの生育歴に関わる、何か心の歪みといった部分がある。学校で、急にいじめは駄目だといって解決するものではないので、難しい問題、背景があると考え、そちら含めて取り組んでいきたい。

委員：生涯学習課の36番、社会体育施設の充実について、評価がAからCになっている。学校施設の損傷が少なかったとなっている。前回に指摘すればよかったが、少なくても良かったのではないかな。無理して直すところを見つけなければC評価に下がってしまうのはどうなのかなと思った。

山下生涯学習課長：前年と比べてどの程度増えたかという指標で、修繕の箇所を前年度にあらかたやっちゃっている。ご指摘のとおり、本当はいいことだが、数値の捉え方としてC評価となっている。

高橋教育長：その評価方法で良いかは、来年度の課題としていきたい。

杉山次長兼教育総務課長：評価については、今回の決議が最終なので、評価の変更は可能である。

高橋教育長：この36番について、皆さんいかがか。

委員：今、支出した額に応じた評価とあったが、例えば、修繕すべき箇所に対する評価、何割が直ったという評価にすれば良いのではないかな。分母をしっかりと設定できると正しい評価に近づくとと思われるが、また、その分母を出すのが難しいか。

山下生涯学習課長：直した件数を指標としている。今回の評価は2か所としているが、前は4か所だったため、50%のC評価としている。委員の考えで

いくと、2 か所中 2 か所であれば A、10 か所中 2 か所は D となるが、そこは分母を確認しなければならない。学校から修繕してほしいところを直している
ので、分母は大きくないが、少し調べなければならない。

委員：分母がどうやって出せるかが課題か。依頼があった件数に対しては明確
だと思うが、教育委員会で必要かどうか調べて精査すると一つハードルが上がる
感じだと思う。

山下生涯学習課長：調べて再評価でいかがでしょうか。

杉山次長兼教育総務課長：後ほど、福祉文教委員会協議会の報告で発言する予
定であったが、昨年、令和 3 年度評価までは数字中心に評価していた。定例会
の中で、本質的に評価すべきことを、数字にとらわれすぎて、見失ってしまう
可能性があるのも、ここに数字を載せないで、事業概要に対して評価をすべき
と意見があった。ある程度数字指標があれば、分かりやすいが、そこにとらわ
れすぎないように、内容に対しての評価でいいのではないかと、ということで数字
にこだわらない評価としている。本質的に評価をしてやれているので、A でい
いのではないかと、B でいいのではないかとするのは、委員の考えの中で評価し
ていただければありがたい。

高橋教育長：36 番について指摘があったが、いかがか。いろいろな考え方は
あるが、要するに、綺麗に使っているのも、直すところがなかった、という捉
えをしてもいいかなと思うが。ただ、分母の数字的な視点もある。そのあたり、
いかがか。

山下生涯学習課長：評価 C になっているが、少し今の段階で、分母何件のうち
何件を修繕したとお答えできないので、もし修正するのであれば、内容を見て
確認した上で、評価方法に照らし決めていきたい。

高橋教育長：今、生涯学習課長から少し精査をして、それにあった評価に修正
する可能性があるということであるが。

(異議なし)

高橋教育長：よろしいですか。修正になる可能性もあるということで、ご理解
いただきたい。他にいかがか。

高橋教育長：学識経験者のコメントが本当によく、第三者的な視点で見ていると強く感じている。言われた意見については、教育委員会としてもしっかりと受け止めて、取り組んでいきたい。

委員：分かれば教えていただきたいが、点検評価をホームページに掲載しているが、どの程度閲覧されているのか。

杉山次長兼教育総務課長：今、データは持ち合わせていないが、市のデジタル政策課が、ホームページの閲覧数データを持っているので、また報告させていただく。

委員：よくホームページで掲載しますとうたわれる内容が、どの程度周知されているか気になった。また、分かれば教えていただきたい。

高橋教育長：非常に重要な点だと思うので、また後日報告を差し上げたい。市議会議員、教育関係者の方については、結構ホームページを確認していただいているようである。データについては、また、後日報告をしたい。

高橋教育長：その他、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教議第11号「令和4年度伊東市教育委員会自己点検・評価報告書について」は、一部保留として承認してよろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教議第11号については一部保留として決定した。以上で議決事項を終了する。

高橋教育長：次に、報告事項に入る。教報第16号「令和5年度伊東市教育機関職員採用試験の結果について」を議題とする。

（杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他「常任福祉文教委員会協議会の報告について」を議題とする。

(山下生涯学習課課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

杉山次長兼教育総務課長：福祉文教委員会協議会において、委員から議題外の質問を受けることがあり、うち杉本憲也議員から、先ほど議決いただいた教育委員会の自己点検評価報告についての質問を受けたので、4点報告させていただく。まず、評価報告書の採点基準について、数値化がされていないが評価は可能なのか、という質問があった。これに対して、自己点検評価は法律に基づき、基本的な政策に目標を定め、AからFまでの6段階評価を行い、判断基準として、細かく数値を出して評価していた時期もあったが、本質的に100%を目指すべき事業では、90%を超えていてもAをつけにくく、Bをつける自己評価もあった。数字にとらわれすぎず、本質的な取り組みの考察を見失わないように、と教育委員会定例会でご意見をいただき、令和3年度からは報告書に数値を掲載していないと回答した。次に、評価はいつ誰がどのような手続きで行っているかという質問があった。自己点検評価は、まず各課で評価をして、次に教育委員会定例会で評価を頂き、学識経験者からの評価、コメント、最後に教育委員会定例会で議決を得て、公表をすると回答した。次に、学識経験者の選定方法について、その基準や資格人数などは特に決まりがないが、これまでは市P連会長、校長会会長、元教育委員長などをお願いをしてきたと回答した。最後に、各項目について、有識者の知見を踏まえた上で、必要な場合に評価を修正して、最終評価ができるのかと、要は事務局だけで評価を決めていないかとの質問があった。先ほど申し上げたように、4つの過程を経て評価しているので、有識者の知見を含めて作成されていると回答した。最後に、公表のタイミングが遅いのではないかと意見いただき、その点は事務局に不慣れな部分もあったことから、来年度は、もう少し早いタイミングで公開できるように努める。

高橋教育長：次に、その他「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：特になし。

関野教育指導課長：生徒指導について報告する。問題行動について、小学校では昨年比で減少、4月から累計でもここ3年で最も低い数値となっている。中学校も同様に昨年比減少、ただ累計では若干増加している状況にある。共同学習等、子どもたちが集まる場面でトラブルが起きているので、事前の指導をしっかり図るよう、指導している。続いて、いじめについて、被害児童生徒や保護者が、いじめ事案の解決状況について、連絡が分かりにくい、不安で過ごすことがないよう、定期的な連絡を取り、話をしていきたいと考えている。また、例年ではあるが、生徒指導担当が各学校で定めているいじめ防止基本方針の内容確認と、必要に応じた訂正を行っている。また、この1月に生徒指導担当を全員招集し、弁護士さんをお呼びし、法的に、いじめに対してどこまで踏み込めるか、学校で抑えるべき観点を学習している。最後に不登校について、11月も変わらず増加傾向にあり、年が明けても改善されない状況にある。これから新年度に向けて、より一層丁寧な指導を行っていきたい。学校もよかれと思って、頻繁に呼びかけをすることが、家庭への重荷になっている家庭もあるので、その辺は各家庭の希望に沿って対応している。

鈴木幼児教育課長：放課後児童クラブの運営事業者について、公募型プロポーザルの選定を行ったので、報告する。

（鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明）

山下生涯学習課長：生涯学習課から4点報告をさせていただく。まず、令和6年二十歳式について報告する。1月8日に挙行し、市内在住者と市外申込書を対象に377人の20歳の皆さんを迎え、厳粛さのなかにも温かみのある式が実施できました。式典では会場から声を上げる方もほとんどなく、実行委員会のメンバーによりスムーズに進行し、式典終了後は観光会館別館前に用意したフォトスポットで友人や家族などと、記念写真撮影や昔話に花が咲いたようである。来年に向けた課題として、式典への保護者の出席、周辺商業施設への無断駐車等対策があげられる。続いて、2点目、第58回伊東オレンジビーチマラソン2024は、先ほど教育長からも話がありましたが、去る1月14日に開催し、申し込みは1861人、前回比121.6%。令和元年度比76.

9%になるが、申込者数は着実に増加しつつある。当日参加者は1659人、北は北海道、南は沖縄からご参加いただき、最高齢は89歳の男性であった。レースはベストコンディションで行われ、ゲストランナーとして、元創価大学、現GMOインターネットグループの嶋津雄大選手を迎え、10キロの部に参加いただき、大会を盛り上げていただいた。続いて、伊東市文化講演会について報告する。今週末1月28日日曜日午後3時から観光会館ホールにおいて、ノーベル生理学医学賞を受賞した北里大学特別栄誉教授の大村智博士をお招きし、「北里柴三郎先生の実学の思想と私の研究」というタイトルで講演会を開催する。ノーベル賞受賞者の話を直接聞けるまたとない機会ですので、ぜひお越しいただければと考えている。最後に伊東市新図書館アンケートの実施について報告する。新図書館については、昨年11月に市長から、サイズダウンして、次のステップに向かうということを周知している。これを踏まえ、新図書館の再設計をあたり、現計画の「夢と未来を育む図書館～ひとりひとりの創造拠点～」というコンセプトに対し、可能な限り維持したい機能を伺うアンケートを実施する。報道機関に取材の依頼を发出し、伊東市のSNS、フェイスブックやX、インスタグラムなどでアンケートの実施を周知したいと考えている。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：まず、オレンジビーチマラソンについて、冒頭も申し上げたが、選手の方々もそうだが、応援に来られた保護者の方、地域の方とも沿道で久しぶりに会ってお話しすることができ、そういった光景が複数も見ることができた。地域の交流が生まれる、いいイベントだと思い、先ほど言い忘れたので、付け加えさせていただく。次に、幼児教育課の公募型プロポーザルの結果について、選定委員の評価点で、南小学校の法人は、全般的に7割以上ポイントがついているが、富戸小学校で継続して担っていただく法人の評価は若干低いように感じる。この評価について、もう少し詳しくお伺いしたい。

鈴木幼児教育課長：まず、評価については、南小学校と富戸小学校、同じ評価基準を設けている。事業者の運営実績、運営方針、子どもに対する支援内容、学校との連携、地域との連携、苦情に対する対応などの評価基準に対し、各委

員が項目ごとに配点していく。委員ご指摘のとおり、評価点に差が発生しているが、南小学校については、社会福祉協議会、次点の候補者共に、他に学童保育の運営実績がある事業者となり、取り組まれている事業からの工夫や企画提案、南小学校に合わせた具体的な内容がプレゼンテーション中でも見受けられた。一方で、富戸小学校については、現在、運営している事業者ではあるが、提案内容が少し乏しいところがあり、少し評価がしづらい印象があった。一方で、6割以上の点数を取られ、実績のある団体でもある。最終選考後に講評の時間があり、各委員から講評をいただく中、委員からも次回こういったプロポーザルに参加するときには、具体的な内容の提案があることを望むコメントがあった。

高橋教育長：放課後児童クラブについては、運営してきた保護者の大変さを解消するために、また、望ましい組織運営のため、幼児教育課でよく取り組んでもらっている。

委員：不登校について、不登校の人数がこれから増えていく中で、先ほど教育指導課長から、電話や訪問の回数を極力少なくしていくという話があった。確かに、理由のわからない不登校児童生徒が増えており、毎日電話したり、家庭訪問が頻繁ということの親の心理的負担を避けるということは、いいことだと思う。ただ、親自身も自分の子どもが学校に行けない、その理由が分からないことは、苦しいことだと思う。例えば、以前に教育長が出席してくださった不登校の講演会の様に、専門職の方に話を聞いてもらうことができれば、相談することができれば、一つのステップアップになるかもしれない。次に、生涯学習課のアンケートについて、例えば学校で配布して、保護者にも回答をしてもらうということを行ったら良いと思う。新聞報道にも載せるということだが、今は新聞を取っている家庭も少ないのではないか。また、アンケートを行っている会場に行かれる方も少ないと思う。学校で配布したら、全員ではないと思うが、保護者の意見も反映できると思う。

関野教育指導課長：委員の言われるとおり、本当に学校だけでは対応できないことがある。委員からご紹介いただいた方も、私も何度かお会いしていろいろ

な話をしている。ある程度、裏方的にずっと関わりを持たせていただいている状況である。それ以外にも個人的に心理士などで知っている方がいるので、ケースバイケースだが、必要に応じて紹介をしている。公的機関としては、家庭児童相談室や教育支援センターへの来所という形で対応しているところである。あとは、児童生徒や保護者がフリースクール等を自分で探してきている場合は、必要に応じてだが、その子のために連携をしている。最後に、まだ予算が正式に決定していないが、校内支援センターということで、不登校への支援員3名ほど、少ない数ではあるが、予算要求をしているので、そことも連携しながら、包括的なケアができればと思う。

山下生涯学習課長：図書館のアンケートについて、今まで開催した2回の説明会でお見えになられたのは、高齢の方が多く、図書館を使っている学生の保護者さんやお子さんの意見がなかなか耳に届かないと感じている。Webであれば、スマホなどから回答いただけるのではと考えた。また、2月に入りまして、校長会でご協力をお願いをする予定となっている。

委員：新図書館のアンケートについて、見てみれば分かることだと思うが、どのようなアンケートになっているのか。そして、もし、アンケートを実施した結果を見て、設計が大幅に変えられてしまうことはあるのだろうか。

山下生涯学習課長：アンケートの内容については、今の現設計の中に盛り込まれている施設機能について、残してほしい施設機能を五つ選ぶ内容となっている。加えて150字以内の自由記述、年齢、居住地を回答してもらう予定である。大幅な変更という部分については、ベースにあるのは現計画であり、その中からリサイズするということで、全部がまるっきり変わるということはない。

高橋教育長：全体像が見えにくい中、大変申し訳なかった。アンケートは回答しやすい形となっているので、またご覧いただきたい。

高橋教育長：それでは、先ほど防災の話題が出ましたので、能登の地震を踏まえて、一言ずつで構いませんので、防災について感じるものがあれば、ご意見を頂ければと思う。

委員：まずは、空き家になっている家の外についている設備、室外機やアンテ

ナが心配という方から話を聞いたことがある。住んでいる人がいなくて心配だが、どのように手をつけて良いか分からないし、市内で他にも似たようなところはたくさんあるだろうとお話しされていた。今、通学路点検をしているが、これから空き家が増え、劣化も進んでいくと、通学路だけではなくて、視線を上げて、すべての道沿いに古くなった空き家がないかも気を付けて欲しい。地震だけではなく、風も強くなって、危険が増している。子どもたちが歩いているときに何か落ちてくる事故に繋がってしまうと思う。個人が所有されているので、勝手に手を付けられない難しさを、皆さん感じていると思うので、そのあたりどうやっていけるか、うまく対応が進んでいくといいなと思った。もう一つは、報道を見ていると、ボランティアに、中学生や高校生など地元の若い子どもたちが、活躍していると聞く。体力的な面はもちろんあるが、事前に対応方法を学習、準備しておく、子どもたちの力がもっと発揮されるのかなと思った。

委員：防災について、自分が小学生のときは、防災の練習といえば防災頭巾をかぶって机の下に潜る程度だったが、昨今は環境や建っている建物の構造も前と全く変わってきている中で、学校ないし家庭で日頃どのようなことを話しているのか気になる。能登の震災にも知り合いから物資を持っていた話を聞いて、今回の被災地も大変だが、やはり皆さん何かしら対策を考えて、やられていると聞いている。伊東の感覚だと、震度2や震度3では、少し揺れたねという程度で話が終わってしまう。もし、大きな地震が来た時に、自分がどういう行動を取ればいいのか、一度体験しなければならないと思う。起震車で震度6や震度7を体感すれば、ニュースを聞いても、立っていられないと想像できるし、津波の数十センチの威力も凄いのだと、体験させてあげたいと思う。子どもも含めて、どのような方も体験することで、選択の幅が広がり、考えに厚みが出ると思う。費用はかかるが、是非いろいろな体験を子どもにさせてあげたい。

委員：自分も防災の活動をしているので、大事なところを子どもに伝えていただきたい。まず、災害時は自分の命を守ることである。自分の安全を確保できてから、今の中高生の力は本当に頼りになるので、自助共助に移ってほしい。

それから普段からの備えが大切である。防災の講座を開くと、参加者に聞くのが、「家族がバラバラに過ごしていた際に災害が起きた場合、どうするか取り決めをしているか、連絡手段をどうしているか」ということである。多くの方が決めていないと話しているが、それを決めて把握しておくことも大事である。あまり難しい話をすると、子どもたちも覚えられない。今は、楽しく学べる防災が出来るので、小さなきっかけから話を広げられれば良い。学校だけではできないので、地域や家庭でもやってほしい。今も新年度になると学校で家庭調査票などは作っているのか。

関野教育指導課長：基本的にはやっているが、最近、個人情報保護の絡みもあって新たに作らなくなった学校もあるが、基本的には全ての情報をもらっている。

委員：以前はあって、発災時の行動を自分も記入していた。部分的でも良いと思う。

委員：会社で防災授業をボランティアで行っている。基本的には小学校向けに、コロナ禍前から行っていて、その頃は、起震車をお借りして、体育館で授業をしていた。最近、また希望の学校を募集して行って、起震車は使えていないが、すごくいい体験をしたと子どもたちから感想を言ってもらえている。1時間程度で、先生方からも評判が良いと感じているので、また引き続きボランティアでやらせて頂ければと思う。

高橋教育長：次回、回答できるところについては回答し、また、いろいろと調査してわかったことがあれば、お伝えしたい。いつ地震が来るか分かりませんので、様々な点で確認していきたい。マニュアルも定期的に見直さなければならぬ部分がある。また、皆さん参加していただいて、知恵を寄せていただきたいと思う。

委員：防災の話で思い出したが、内閣府の防災情報ページの中に、震度6強体験シミュレーションというゲームがある。ご存知か。

委員：面白いですね。

委員：子どもたちとやってみたところ、結構面白い。どういふことをすると危

なくなるか、ゲームみたいに１００ライフがあつて、状況を選択すると２０ライフ減りました、といった内容である。防災教育の場で大画面に映してやれば、盛り上がると思う。家庭でやっても面白いので、何かの機会に紹介できればと思った。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：２月の定例会については、２月２７日（火曜日）午後２時３０分を予定している。３月の定例会については、３月２６日（火曜日）を予定とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会１月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 遠山 泰範

書 記 藤原 真紀